

和田勇氏の紙芝居制作着々

日高高JRC部が色つけ中

和田勇顕彰会

和田勇顕彰会（会長・吉田擴御坊商工会議所会頭）が行う今年度最後の事業、和田勇氏の紙芝居制作は、現在、日高高校JRC（青少年赤十字）部の部員らが絵を描く作業を進めている。

物語は、和田勇氏が御坊・日高の地で過ごした幼少期から、アメリカでの青果店経営、戦争、全米選手権大会出場の日本水泳選手団支援などを経て、東京オリンピック招致のため南米行脚しオリンピック開催を実現するまでの一連を、幼児

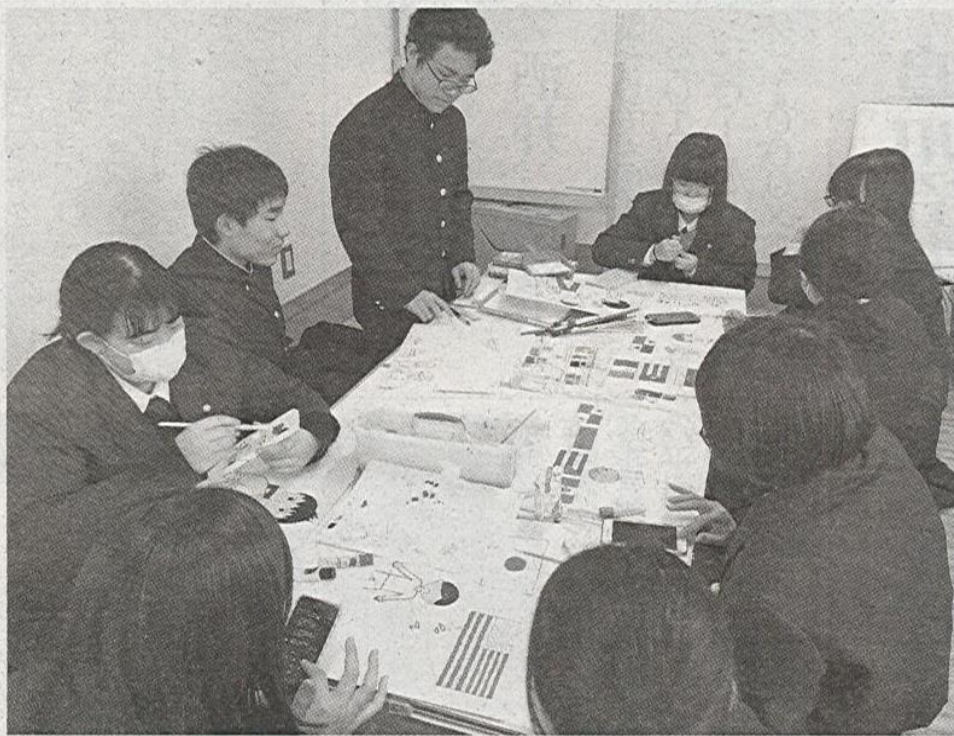
でも分かりやすく楽しめるよう描いている。

絵は、物語を15ほどの段落に分け、各段落ごと内容にあった構図で制作。部員らはまず、みんなで各段落に合う構図を考え素描してイメージを共有し、それを

もとに担当分けして本格的に描き始めた。「小さい子どもにも親しみをもってもらえるように」と絵柄はかわいらしい雰囲気にして、見やすいよう黒の油性マジックでくっきりと枠線どり。目下、線書きはすでに終え、水彩絵の具で色つけする段階に入っている。

部の活動は普段は月曜日と金曜日の放課後週2回だが、今は、できるだけ早く完成させたいと都合の付く部員が連日部室に詰め、わいわいとにぎやかに作業を進めている。

「いい紙芝居ができそう。完成が楽しみ」と、部長・玉置朝花さん（2年）。



和気あいあいと色つけ作業に励む部員ら